

同窓会便り

発行
東北大学・電気・通信・電子・情報同窓会
仙台市荒巻字青葉
TEL 22-1800
発行責任者
高野知彦
(題字 高野知彦氏)

小池先生御逝去

高野知彦



東北大学名誉教授小池勇二郎先生は昨年十月七日午後五時御逝去になりました。痛恨の至りに耐えられない次第であります。

先生は昭和六年電気工学科を卒業され、直ちにNHKに入社し、主として調査や設計の業務に従事した後、昭和十六年退社して東北大学助教授となり、通信工学科及び電気通信研究所に於て研究に従事し、昭和十九年教授、昭和三十三年電子工学講座を担任、昭和三十五年からは初代教授として電子工学科の創設に尽力された。この間電気通信振興会の理事として通研及び電気系学科の研究振興に尽力され、又半導体研究

振興会の設立にも積極的に応援を惜しまれなかつた。昭和三十七年松下幸之助社長の懇望に答えて松下電気産業の取締役に就任し、常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所を創設し、社長としてその運営発展に尽くして来られたのであった。

昭和三十三年頃の我が国の電子機器の輸出は、ミシンの輸出額とほぼ同じで、全輸出の六・八%、西独の四・六%に過ぎなかつた由である。その後日本の電子産業は次第に発展し、やがて急激に伸び、約二十年近く経たずして、十年に百二十倍になり、自動車、鉄鋼と共に輸出の花形に飛躍したと謂われて居る。これは電子産業振興を目的とする各界の協力態勢が昭和三十一年頃より逐次いくつかが作られた事、研究と生産との結び付きを可能ならしめる具体的な機関が作られたり、研究と生産との連繋が密接になる様な具体的な方策が検討され実施されたこと等が原動力となつて居るわけである。この間に在つて電子工学及び電子産業の発展の爲めに尽された君の功績は実に偉大なものと思われ、これであり、これである。誠に残念無念である。切に御冥福を祈る次第であります。

麻生先生御逝去

高野知彦

麻生先生は、昨年十一月十二日早朝、仙台厚生病院において胃がんのため逝去されました。まだ五十一才の若さで、これから、電気工学科の電力、エネルギー関係の研究の中心として、御活躍していただきたか、ただだけに、痛惜の念に耐えられません。

先生は、昭和五十二年二月に、風邪がなかなか抜けず体調がすぐれないというので、仙台厚生病院に入院され、約一ヶ月間、呼吸器関係の精密検査を受けられましたが、結局はつきりした不調の原因が判明しないまま、退院になりました。その後、一〜二週間に一回、不眠の人となつてしまいました。その間、十二月、三月、九月と、何度も危機がおとすれましたが、先生の強い精神力と、薬効により、死線を乗り越えられました。

特に三月末から四月にかけての危機には、主治医もあきらめた程度ですが、奇蹟的に、薬がきき、五月には、病巣部分も非常に縮小し、それまで、閉塞し

度割合で、通院され、検査を続けておられました。五十一年十月、どうも胃の調子がおかしいと話され、レントゲン検査の結果、幽門閉塞という診断で、速刻入院、手術ということになりました。手術の結果、外科的治療は手遅れであるということ、薬物による化学療法に変更され、約一年間の闘病生活が続きましたが、ついに不眠の人となつてしまいました。その間、十二月、三月、九月と、何度も危機がおとすれましたが、先生の強い精神力と、薬効により、死線を乗り越えられました。

先生は、昭和五十二年二月に、風邪がなかなか抜けず体調がすぐれないというので、仙台厚生病院に入院され、約一ヶ月間、呼吸器関係の精密検査を受けられましたが、結局はつきりした不調の原因が判明しないまま、退院になりました。その後、一〜二週間に一回、不眠の人となつてしまいました。その間、十二月、三月、九月と、何度も危機がおとすれましたが、先生の強い精神力と、薬効により、死線を乗り越えられました。

思師 小池勇二郎先生を偲ぶ

美山 悌二郎

小池先生との出会い、は昭和十九年、小池研の門を叩いたときである。ただ簡単に、新潟高校の先輩だからという発想だった。以来、三十有余年、影になり表になり指導ご教授をいただき、私が今あるのも先生のお蔭だと思ひます。

先生は慎重、果敢にして冷静な人だった。例えば戦前、研究所の疎開があったが、先生の慎重な企画性と果敢な行動力はいかなく発揮された。私は疎開先で寮長をしていたが、食糧確保などまかせ切りで、時折指導なされた。後半も先生は余り研究室に見えず、遠くで指導された。そこいらが上手な先生だ

ていた幽門が、通る様になり、どんな食物も食べられる様になりました。この時は、皆大喜びでした。このまま、全快してほしいと祈つたものでした。

麻生先生は、九州、福岡県田川郡方城町の御出身で、親せきの方々がそちらに多くおいでですので、亡くなりました。本葬儀は、郷里



麻生先生は、佐賀高等学校を経て、昭和二十三年東京大学第二工学部電気工学科を御卒業になり、大学院特別研究生として、藤高周平先生のもとで研究を積まれた後、東京大学生産技術研究所助手、防衛大学校助教授、同

先生は、昭和五十二年二月に、風邪がなかなか抜けず体調がすぐれないというので、仙台厚生病院に入院され、約一ヶ月間、呼吸器関係の精密検査を受けられましたが、結局はつきりした不調の原因が判明しないまま、退院になりました。その後、一〜二週間に一回、不眠の人となつてしまいました。その間、十二月、三月、九月と、何度も危機がおとすれましたが、先生の強い精神力と、薬効により、死線を乗り越えられました。

止や電力系統の安全対策等の問題にもとり組まれ、先生の業績と学識は高く評価されていきました。

先生は、東北大学の研究活動のかたわら、電気学会、鉄道電

早いもので、麻生先生が亡くなられてからもう一年近くになります。

私達が深く敬慕する麻生先生は昨年十一月十二日早朝仙台厚生病院において胃がんのため逝去されました。まだ五十一才の若さで、これから、電気工学科の電力、エネルギー関係の研究の中心として、御活躍していただきたか、ただだけに、痛惜の念に耐えられません。

先生は、昭和五十二年二月に、風邪がなかなか抜けず体調がすぐれないというので、仙台厚生病院に入院され、約一ヶ月間、呼吸器関係の精密検査を受けられましたが、結局はつきりした不調の原因が判明しないまま、退院になりました。その後、一〜二週間に一回、不眠の人となつてしまいました。その間、十二月、三月、九月と、何度も危機がおとすれましたが、先生の強い精神力と、薬効により、死線を乗り越えられました。

先生は、昭和五十二年二月に、風邪がなかなか抜けず体調がすぐれないというので、仙台厚生病院に入院され、約一ヶ月間、呼吸器関係の精密検査を受けられましたが、結局はつきりした不調の原因が判明しないまま、退院になりました。その後、一〜二週間に一回、不眠の人となつてしまいました。その間、十二月、三月、九月と、何度も危機がおとすれましたが、先生の強い精神力と、薬効により、死線を乗り越えられました。

電力業界の発展にも大きな足跡を残された。電気工学科教官の中核として、これからの一層の御活躍に大きな期待がかけられており、また、麻生先生の御逝去に、先生のお蔭で、研究等を通じて、地元

この様な研究教育の御活躍は、工学部にとどまらず、昭和四十五年からは、補導協議員として、学内の困難な問題に接することが出来なことを思うと、悲しみを深く感じました。先生の御逝去に、先生のお蔭で、研究等を通じて、地元

十二月一日に新しい役員が決定しました。第五部(工学)全国区役員二十三名に立候補者二十八名、内専門電気は八名の多きを数えました。特に東北大学電気系から大泉充郎、佐藤利三郎の両氏が立候補しました。同窓会各位には大変迷惑をかけることになりました。しかし幸い両君の当選が決まり、二村忠元君の地方区無投票当選とあわせて三名の役員を日本学術会議に送ることが出来ました。これはひとえに同窓会各位の強力な支持の賜と存じます。

先生は、昭和五十二年二月に、風邪がなかなか抜けず体調がすぐれないというので、仙台厚生病院に入院され、約一ヶ月間、呼吸器関係の精密検査を受けられましたが、結局はつきりした不調の原因が判明しないまま、退院になりました。その後、一〜二週間に一回、不眠の人となつてしまいました。その間、十二月、三月、九月と、何度も危機がおとすれましたが、先生の強い精神力と、薬効により、死線を乗り越えられました。

第十一期日本学術会議 会員選挙について
佐藤利三郎

昭和五十二年十月に第十一期日本学術会議の選挙が行われ、

坂山平一先生の 胸像贈呈事業について

城戸健一

坂山平一先生は、大正二年に東北大学電気工学科の創設者の一人として仙台に赴任され、以来、四十余年の長年月にわたって、電気系学科、研究所における教育、研究に、身を以て尽くされ、その功績は、電磁気学におけるベクトルパワー不生不滅の法則の証明、ポインティングベクトルの概念の創設、ラグランジュの運動方程式の電磁・力学系の拡張による電力変換理論の創設等の研究業績は、今も、私共の研究の源流になっております。

また、通信研究所と通信工学科の創設は、今日の大電気系の発展を促したものであり、八木秀次先生の電気工学科創設と並ぶ功績であります。この坂山先生の胸像を電気通信研

先生は、昭和五十二年二月に、風邪がなかなか抜けず体調がすぐれないというので、仙台厚生病院に入院され、約一ヶ月間、呼吸器関係の精密検査を受けられましたが、結局はつきりした不調の原因が判明しないまま、退院になりました。その後、一〜二週間に一回、不眠の人となつてしまいました。その間、十二月、三月、九月と、何度も危機がおとすれましたが、先生の強い精神力と、薬効により、死線を乗り越えられました。



